

Clothing Selection and Purchasing Behavior of University Students Living in and around Fukui City

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-08-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 海道, 貴子, 服部, 由美子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/3774

福井市およびその周辺に在住する大学生の着装行動

Clothing Selection and Purchasing Behavior of University Students Living in and around Fukui City

海道 貴子*

服部由美子**

(福井大学教育地域科学部生活科学教育講座)

1. はじめに

現在では、ファッションは比較的实现可能な自己表現の手段になっている。デパートやショッピングセンターなどに行けば多種多様な既製衣料が常時揃えてあり、それらを容易に購入できる。また、街にはいろいろな服装をした人たちが溢れ、例えば流行の先端に行く服装、高価なブランド品で着飾った服装、個性的な服装など様々である。しかし、現代の若者は流行には敏感であるが、ファッションが多様化する一方で同じような服装をしている姿も見受けられる。流行を取り入れる意識は一樣でないように思われる。

ファッションに対する人々の意識や関心の高さは、ファッション関連の情報を発信する雑誌の多さからもうかがえる。女性誌、男性誌、10代向けの雑誌、婦人向けの雑誌の他、さらに細分化されてストリート系、セクシー系、エレガンス系、ルーズ系、カジュアル系、ギャル系、ギャル男(お兄系)、メンノン系、モード系、裏原系、秋葉系など、多数存在する。

従来、服装評価に関する研究として、藤原による被服の自己概念に関する研究^{1)~3)}、加藤・椋山による被服における着装イメージや配色効果に関する研究^{4)~9)}、神山による服装に関する心理的研究^{10)~14)}、小林による着装に関する研究^{15)~20)}、日本衣料管理協会による衣料の取得・使用・廃棄の実態を調べる『衣料の使用実態調査』²¹⁾などがある。しかし、実際に着用されている衣服について詳細に検討された研究は少ない。

人々が衣服を選択する基準として色や柄、形、サイズ、素材、価格などが考えられるが、着装方法は年齢、男女の性差、季節やTPOなどの環境により異なることから、本研究ではファッションが多岐化多様化している現状において、人々は何を基準に衣服を選択し、着用しているか、福井市およびその周辺に在住する大学生の男女を対象に、衣生活に対する関心度と衣服を選択する基準、季節別着用目的別に利用頻度の高いアイテムと色、素材、風合い、イメージについてアンケート調査を行い、衣生活に対する意識と着装の実態を明らかにした。

(キーワード：大学生、服装、選択、季節、場所、福井市周辺)

* Takako Kaido

(Department of Human Ecology and Technology Education, Faculty of Education and Regional Studies, University of Fukui, Fukui, 910-8507)

** Yumiko Hattori

(Department of Human Ecology and Technology Education, Faculty of Education and Regional Studies, University of Fukui, Fukui, 910-8507)

2. 調査概要

2.1 調査対象者

18歳から24歳までの福井市およびその周辺に在住する大学生70人（男子33人、女子37人）である。通学には、徒歩、自転車あるいは自家用車を利用し、公共交通機関はほとんど利用していない。

2.2 調査内容

調査対象者の衣生活に対する意識を把握するために、まず関心度と衣服を選択する基準について尋ねた。衣生活に対する関心度は、「非常に関心がある・まあまあある・どちらともいえない・あまりない・全くない」の5段階の評定尺度を用いた。着用する衣服を選ぶ基準は、「天候・気温・時・場所・目的・気分・ラッキーカラー・その他」の選択肢を用意して、回答を求めた。また、服装に関する情報を得る手段を明らかにするために、参考にしてしている雑誌（雑誌名を書く）を尋ねた。

次に、季節別に夏服と冬服、着用目的により通学や買い物などの外出時と自宅などでくつろいでいる時を設定し、それぞれ衣服を購入する際の基準と着用する衣服を選ぶ人を尋ねた。前者に対して、「店・色・価格・流行・素材・サイズ・デザイン・ブランド・縫製が丁寧・似合うもの・着こなしが簡単・手入れが簡単・着回しが簡単・他者が認めるもの・長く着ることができそう・オーソドックスなもの・装飾品（アクセサリ、帽子など）に合う」の計17項目、後者に対して「自分・家族・その他」を選択肢として、回答を求めた。そして、利用頻度の高い衣服について表1に示すようなアイテムとして上衣17品目、下衣6品目、色9系統、素材5タイプ、布の「風合い」を表現する言葉12個、服装イメージを表現する言葉14個を用意して回答を求めた。さらに、具体的なシルエットやディテールを明らかにするため、服装のイラストを描くことを求めた。

調査用紙の最後には、大学生が日頃衣服に関して感じていることや思っていることを自由に回答できるように、自由記述欄を設けた。

表1 調査項目

項目		回答選択肢
アイテム	上衣	シャツ セーター Tシャツ コート ベスト パーカー ジャージ アンサンブル トレーナー ポロシャツ タンクトップ キャミソール ブラウス ジャンパー ホームドレス カーディガン その他
	下衣	スカート パンツ ハーフパンツ ジーンズ ジャージ その他
色		赤系 橙系 黄系 緑系 青系 紫系 白系 灰系 黒系
素材		コットンタイプ シルクタイプ ウールタイプ 皮革タイプ その他
風合い		重い 軽い 暖かい 冷たい 光沢がある かたい やわらかい 厚手 薄手 伸びやすい ざらざらする その他
イメージ		カジュアルな スポーティーな 個性的な 平凡な 地味な 派手な 上品な 大人っぽい 若々しい モダンな ルーズな タイトな フェミニンな その他

2.3 調査方法

質問用紙は、学生に配布したのち1週間以内に回収した。調査は、平成16年7月から10月にかけて実施した。

3. 調査結果および考察

3.1 衣生活に対する関心度

衣生活に対する関心度を、表2に示す。男女とも「まあまあある」が最も多く、次いで「非常に関

心がある」「どちらともいえない」「全くない」の順であった。「非常に関心がある」「まあまあある」を合わせると男子 26 人 (78.8%)、女子 32 人 (86.5%) を占め、また「全くない」は 0 人であることから、大学生では男女とも衣生活に対する関心はかなり高いといえる。

表 2 衣生活に対する関心度

(単位：人)

性別	非常に関心がある	まあまあある	どちらともいえない	あまりない	全くない
男子	10(30.3%)	16(48.5%)	6(18.2%)	1(3.0%)	0(0.0%)
女子	12(32.4%)	20(54.1%)	3(8.1%)	2(5.4%)	0(0.0%)
全体	22(31.4%)	36(51.4%)	9(12.9%)	3(4.3%)	0(0.0%)

3. 2 着用する衣服を選ぶ基準

「着用する衣服を選ぶ際、何を基準に選んでいますか」に対する回答率 (%) を、図 1 に示す。複数回答で求めている。

男子は「気温」「気分」とともに 18 人 (54.6%) で最も多く、次いで「天候」13 人 (39.4%)、「場所」「目的」10 人 (30.3%) に対して、女子は男子と同様「気分」26 人 (70.3%) が最も多く、次いで「気温」20 人 (54.1%)、「天候」16 人 (43.2%) の順であった。男女ともその日の「気分」で着用する衣服を選ぶ傾向を示し、男子よりも女子において衣服は「気分」に大きな影響を与えることが推察される。また、「場所」や「目的」よりも「天候」や「気温」という自然環境条件に左右される傾向を示していることから、衣服のデザインなどの見た目よりも着心地のよさ、快適さを重視している人が多いと思われる。

参考にしている雑誌は、男子では「MEN'S NON-NO」「smart」「FINE BOYS」「Boon」「men's egg」、女子では「non-no」「JJ」「mina」「MORE」「sweet」「CUTiE」「Ray」「with」「Popteen」「ViVi」などで、いずれの雑誌もファッション雑誌ランキング²²⁾では上位の雑誌であった。

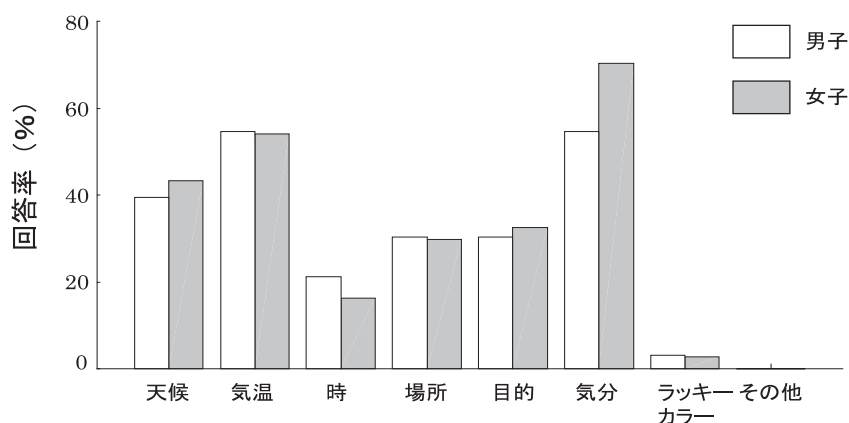


図 1 着用する衣服を選ぶ基準

3. 3 衣服を購入する基準

「衣服を自分で購入する際、何を基準に購入しますか」に対する回答率 (%) を、季節別着用目的別に表 3 に示す。網掛けの部分は、半数以上の人を選んだ項目である。

季節の違いは大差ないが、男女とも通学や買い物などの外出時と自宅などでくつろいでいる時に着用する衣服の購入基準は異なる傾向が認められる。外出時には男女とも「色」「価格」「サイズ」「デザ

イン」「似合うもの」の回答が多く、ほとんどの項目において男子よりも女子の回答率の方が上回っている。また、男女とも「流行」よりも「着まわしが簡単」「長く着ることができそう」を重視する人の方が圧倒的に多く、流行の周期は短いにもかかわらず衣服を長く着たいという意識はあるように思われる。しかし、「ブランド」「オーソドックスなもの」「装飾品に合う」については、女子よりも男子の回答が多いことに注目される。また、「素材」「縫製が丁寧」「手入れが簡単」よりも「色」「デザイン」「似合うもの」の回答が多いことから、外出時の衣服は実用性よりも装飾性を重視する人が多いと思われる。

これに対して、くつろいでいる時に着用する衣服は男女とも「価格」「サイズ」が上位を占め、「色」「デザイン」「流行」「ブランド」「装飾品に合う」の回答は外出時よりも減少していることから、実用性を重視する人が多いことを示唆している。

男子と女子を比較すると、女子は外出時には「着回しが簡単」、くつろいでいる時には「素材」を重視する傾向を示し、男子よりも女子の方が基準をよく考えながら衣服を購入しているものと思われる。

表3 衣服の購入基準

(単位：%)

項目	夏 服				冬 服			
	外出時		くつろいでいる時		外出時		くつろいでいる時	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
店	18.2	32.4	6.1	10.8	30.3	32.4	3.0	8.1
色	66.7	78.4	36.4	43.2	66.7	73.0	33.3	48.6
価格	69.7	81.1	78.8	73.0	66.7	83.8	75.8	75.7
流行	9.1	18.9	0.0	2.7	9.1	27.0	0.0	0.0
素材	33.3	37.8	33.3	51.4	39.4	62.2	39.4	62.2
サイズ	66.7	62.2	63.6	64.9	57.6	64.9	51.5	64.9
デザイン	69.7	83.8	30.3	32.4	63.6	78.4	33.3	37.8
ブランド	24.2	10.8	0.0	2.7	15.2	8.1	6.1	5.4
縫製が丁寧	3.0	8.1	6.1	2.7	9.1	10.8	6.1	10.8
似合うもの	54.5	67.6	24.2	18.9	57.6	56.8	21.2	10.8
着こなしが簡単	21.2	27.0	18.2	13.5	18.2	40.5	42.4	21.6
手入れが簡単	0.0	10.8	15.2	32.4	3.0	16.2	15.2	16.2
着回しが簡単	36.4	73.0	33.3	13.5	27.3	59.5	18.2	27.0
他者が認めるもの	9.1	2.7	3.0	2.7	6.1	8.1	3.0	2.7
長く着ることができそう	12.1	32.4	42.4	27.0	15.2	32.4	15.2	27.0
オーソドックスなもの	6.1	2.7	24.2	10.8	12.1	2.7	24.2	10.8
装飾品に合う	9.1	5.4	3.0	0.0	9.1	5.4	0.0	0.0

3.4 衣服を選ぶ人

着用する衣服を選ぶ人を、表4に示す。大学生の場合、季節および着用目的に関係なく男女とも「自分」の回答が多かった。

この傾向を玉村による高齢者の衣生活に関する調査結果²³⁾と比較すると、65歳以上の自立した生活をしている高齢者では、女子の約90%は年齢や職業の有無に関係なく自分で着用する衣類を選んでいる。これに対して、男子は有職者の多い60歳代後半では配偶者に依存し、仕事を引退し時間に余裕のできる70歳代では自分で選ぶ人が増加する傾向を示していることから、特に男子では年齢層により衣生活に対する意識の違いがあることがうかがえる。

表4 衣服を選ぶ人

(単位：人)

項目	夏 服				冬 服			
	外 出 時		くつろいでいる時		外 出 時		くつろいでいる時	
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子
自分	30	36	30	35	28	32	30	35
自分または家族	1	1	2	2	1	3	1	1
自分または家族以外	1		1		2		1	
その他	1							
無回答					2	2	1	1

3.5 利用頻度の高い服装

利用頻度の高いアイテム、色、素材、布の風合い、服装イメージについて、季節別着用目的別に回答の多かった上位3項目を表5に示す。複数回答で求めている。

(1) アイテムについて

上衣では、季節による違いが顕著にみられ、夏服の特徴として外出時およびくつろいでいる時には男女とも「Tシャツ」を着用している人が圧倒的に多く、次いで「シャツ」「タンクトップ」であった。女子は流行の影響と思われるが、外出時に「キャミソール」も多かった。冬の外出時には男子は「パーカー」「トレーナー」「Tシャツ」に対して、女子は「セーター」「コート」「カーディガン」の回答が多く、男女では異なるアイテムを示した。くつろいでいる時の服装は、男女とも「トレーナー」を着用している人が多く、次いで「パーカー」または「ジャージー」が多かった。

下衣では、季節に関係なく外出時には男女とも「ジーンズ」が主流を占めているのに対して、くつろいでいる時には着心地が楽なためと思われるが、夏には「ハーフパンツ」、冬には「ジャージー」を着用する人が多かった。「ジーンズ」は、一般に丈夫な生地を用いて身体に密着したデザインが多いため、自宅などでくつろいでいる時にはあまり着用されないことを示唆している。

また、従来「スカート」は女子の代表的な下衣とされているが、女子は外出時に「スカート」を着用する傾向が認められる。しかし、「ジーンズ」や「パンツ」よりも回答率は低く、自宅などでくつろいでいる時に着用されるアイテムの順位も低いことから、「スカート」は現在では日常生活の中であまり着用されない傾向を示している。

男子は、夏の外出時に「ハーフパンツ」を利用する人が多いことに注目される。蒸し暑い日本の夏には身体をウエストラインから足首まで覆い尽くす長ズボンよりも半ズボンの方が涼しく快適に過ごせることから、合理的な服装をしていると思われる。

大学生の場合、女子の方が流行を反映して多様化している傾向はみられるが、基本的には男女とも同じようなアイテムを利用し、機能性を重視した服装をしていることが認められる。

(2) 色について

服装の色には、男女差はほとんど認められない。流行色を考慮する必要があるが、季節および着用目的に関係なく回答の多い色は「白系」「黒系」「青系」「灰系」に対して、回答の少ない色は「黄系」「橙系」「緑系」「紫系」であった。

上衣では、男子は夏の外出時およびくつろいでいる時ともに「白系」が最も多かったが、女子は外出時には「黒系」、くつろいでいる時には「白系」であった。冬服は、男女とも「黒系」が最も多かった。夏には明るい色が好まれ、冬には暗い色が好まれる傾向を示している。

下衣では、季節および着用目的に関係なく男女とも「黒系」が最も多く、次いで「青系」であった。上衣に比べ、「白系」の回答は少なかった。「白系」は膨張色であり、汚れも目立ちやすいため、下衣にはあまり用いられない傾向を示している。有彩色の回答数は少ないことから、下衣は上衣に比べ、

表5 利用頻度の高いアイテム、色、素材、布の風合いおよび服装イメージの上位3項目

(単位：%)

項目	夏 服				冬 服				
	外出時		くつろいでいる時		外出時		くつろいでいる時		
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
上 衣	アイテム	Tシャツ (93.9)	Tシャツ (89.2)	Tシャツ (87.9)	Tシャツ (94.6)	トレーナー・パーカー (54.5)	セーター (86.5)	トレーナー (69.7)	トレーナー (89.2)
		シャツ(66.7)	タンクトップ (62.2)	タンクトップ (36.4)	ジャージータンクトップ (29.7)	コート (83.8)	ジャージー (51.5)	パーカー (36.4)	パーカー (43.2)
		タンクトップ (42.4)	キャミソール (54.1)	シャツ(33.3)	Tシャツ (48.5)	カーディガン (48.6)	パーカー (36.4)	ジャージー (40.5)	ジャージー (40.5)
	色	白系 (87.9)	黒系 (86.5)	白系 (81.8)	白系 (67.6)	黒系 (78.8)	黒系 (81.1)	黒系 (66.7)	黒系 (73.0)
		黒系 (81.9)	白系 (70.3)	黒系 (63.6)	黒系 (56.8)	白系 (45.5)	白系 (56.8)	白系 (60.6)	灰系 (51.4)
		青系 (36.4)	青系 (29.7)	青系 (39.4)	灰系 (37.8)	青系 (42.4)	灰系 (45.9)	灰系 (36.4)	白系 (35.1)
	素材	コットン (81.8)	コットン (97.3)	コットン (66.7)	コットン (86.5)	コットン (78.8)	コットン (70.3)	コットン (69.7)	コットン (75.7)
		シルク(12.1)	ウール(16.2)	ウール・シルク(6.1)	ウール(2.7)	ウール(27.3)	ウール(64.9)	ウール(12.1)	ウール(18.9)
		その他 (9.1)	—	—	—	皮革(6.1)	皮革(5.4)	その他 (9.1)	その他(2.7)
	風合い	軽い (78.8)	軽い (81.1)	軽い (78.8)	軽い (78.4)	暖かい (69.7)	暖かい (86.5)	暖かい (72.7)	暖かい (89.2)
		やわらかい (63.6)	薄手・やわらかい(59.5)	薄手・やわらかい(54.5)	やわらかい (54.1)	厚手 (54.5)	厚手 (64.9)	軽い・やわらかい(48.5)	厚手 (51.4)
		薄手 (54.5)	—	—	薄手 (48.6)	やわらかい (36.4)	重い (29.7)	—	やわらかい (45.9)
イメージ	スポーティーな・個性的な (39.4)	カジュアルな (81.1)	スポーティーな(39.4)	カジュアルな (56.8)	カジュアルな (45.5)	カジュアルな (59.5)	平凡な(42.4)	カジュアルな (59.5)	
	ルーズな・カジュアルな・若々しい (33.3)	若々しい (24.3)	ルーズな (36.4)	スポーティーな(29.7)	個性的な (30.3)	大人っぽい (24.3)	スポーティーな(30.3)	スポーティーな(29.7)	
下 衣	アイテム	ジーンズ (87.9)	ジーンズ (91.9)	ハーフパンツ (72.7)	ハーフパンツ (67.6)	ジーンズ (78.8)	ジーンズ (81.1)	ジャージー (78.8)	ジャージー (75.7)
		ハーフパンツ (51.5)	パンツ (73.0)	ジャージー (42.4)	ジャージー (62.2)	パンツ (51.5)	パンツ (73.0)	パンツ (24.2)	パンツ (29.7)
		パンツ (36.4)	スカート (51.4)	パンツ (12.1)	ジーンズ (21.6)	ジャージー (12.1)	スカート (56.8)	ジーンズ (21.2)	ジーンズ (18.9)
	色	黒系 (84.8)	黒系 (78.4)	黒系 (72.7)	黒系 (70.3)	黒系 (84.8)	黒系 (86.5)	黒系 (84.8)	黒系(70.3)
		青系 (60.6)	青系 (64.9)	青・白系 (33.3)	青系 (45.9)	青系 (45.5)	青系 (43.2)	青系 (39.4)	青・灰系 (35.1)
		灰系 (36.4)	灰系 (24.3)	—	白・灰系 (21.6)	灰系 (27.3)	白・灰系 (21.6)	白系 (27.3)	—
	素材	コットン (60.6)	コットン (81.1)	コットン (66.7)	コットン (86.5)	コットン (69.7)	コットン (73.0)	コットン (57.6)	コットン (75.7)
		その他(12.1)	その他(16.2)	ウール(9.1)	ウール(2.7)	ウール (6.1)	ウール(24.3)	その他(15.2)	ウール(10.8)
		—	—	その他 (6.1)	—	皮革(3.0)	その他(13.5)	ウール(12.1)	その他 (8.1)
	風合い	軽い (57.6)	軽い (45.9)	軽い (72.7)	軽い (70.3)	暖かい (42.4)	暖かい (59.5)	暖かい (54.5)	暖かい (75.7)
		やわらかい (45.5)	伸びやすい (37.8)	やわらかい (51.5)	やわらかい (51.4)	厚手 (33.3)	厚手 (45.9)	軽い (42.4)	やわらかい (48.6)
		薄手 (21.2)	やわらかい (35.1)	薄手 (48.5)	伸びやすい (45.9)	重い・軽い (27.3)	やわらかい (40.5)	やわらかい (39.4)	厚手 (37.8)
イメージ	カジュアルな (42.4)	カジュアルな (83.8)	スポーティーな (39.4)	カジュアルな (51.4)	カジュアルな (48.5)	カジュアルな (56.8)	平凡な (48.5)	カジュアルな (56.8)	
	ルーズな (33.3)	スポーティーな (24.3)	平凡な (36.4)	スポーティーな (29.7)	平凡な(30.3)	大人っぽい (21.6)	スポーティーな (36.4)	スポーティーな (27.0)	
イメージ	スポーティーな(30.3)	平凡な(21.6)	ルーズな (33.3)	ルーズな (18.9)	ルーズな (24.2)	若々しい (16.2)	ルーズな (21.2)	平凡な(21.6)	

地味な色にしている。また、「青系」は上衣よりも下衣、冬服よりも夏服、くつろいでいる時よりも外出時の服装において回答の多いことから、下衣の主流を占める「ジーンズ」の影響がうかがえる。

(3) 素材について

衣服のデザイン同様「素材」の多様化には著しいものがあり、判断が困難なため回答していない人もいる。しかし、上衣および下衣について、季節および着用目的に関係なく男女とも「コットンタイプ」を着用している人が圧倒的に多かった。女子は、冬の外出時に上衣において「ウールタイプ」の回答も多くなる傾向を示しているが、これは「セーター」の着用が考えられる。「皮革タイプ」は、流行にもよるが「ジャンパー」などが該当するものと思われる。「その他」として、「化繊」「ベロア」「フリース」などであった。

「コットンタイプ」のものは他に比べ、汗や皮脂などの汚れを吸収しやすいことから、特に汗のよく出る夏に着られているものであるが、近年は冬でも地球の温暖化やエアコンの普及により快適な室内温度を保てることなどから、保温性のある「ウールタイプ」よりも肌ざわりのやさしい「コットンタイプ」の方が一年中好まれている。

(4) 布の風合いについて

上衣および下衣について、着用目的にかかわらず夏服には男女とも「軽い」が最も多く、次いで「やわらかい」「薄手」であった。夏は暑いため、布には「薄い」もの、そして動きやすさから「やわらかい」「軽い」ものが好まれていると思われる。女子では、下衣に「伸びやすい」の回答も多かった。冬服には「暖かい」が最も多く、次いで「厚手」「やわらかい」の順で、女子では「重い」の回答も多かった。これは、「コート」の着用が考えられる。

回答率の低い風合いは、夏服では「暖かい」「厚手」、冬服では「冷たい」「薄手」、くつろいでいる時には「かたい」、全体に共通して「光沢がある」「ざらざらする」であった。

布の風合いには、「暖かい」「冷たい」「厚手」「薄手」のように季節により異なるもの、「やわらかい」のように男女の性差、季節および着用目的に関係なく常に望まれるものが存在することが認められる。また、外出時に比べくつろいでいる時は「軽い」の回答も多く、楽さや着心地のよさが重視されていると思われる。

(5) 服装イメージについて

上衣および下衣について、季節および着用目的に関係なく男女とも「カジュアルな」の回答が多かった。この傾向は、特に女子において著しい。男子は夏の外出時には上衣に様々なイメージの衣服を着用する傾向を示し、「スポーティーな」「個性的な」「若々しい」「ルーズな」の回答も多かった。くつろいでいる時は、季節に関係なく男女とも「カジュアルな」「スポーティーな」「平凡な」「地味な」「ルーズな」の回答が多く、動きやすさが重視されていると思われる。

下衣では、「カジュアルな」「ルーズな」「スポーティーな」「平凡な」の回答が多いが、男子では「大人っぽい」よりも「若々しい」「タイトな」よりも「ルーズな」の回答が多いのに対して、女子では後者の回答が多く、服装のイメージには男女による違いがみられた。

「上品な」「モダンな」「フェミニンな」の回答は少なかった。

3.6 服装のコーディネート

イラストに描かれた服装の概要を、表6に示す。なお、イラストを記載していない女子が2人、夏に上半身を裸にしている男子が4人いた。

上衣については、夏服は衿なしで半袖または袖なしが多いのに対して、冬服は長袖で外出時には衿のあるものが多かった。くつろいでいる時の服装は、季節に関係なく女子1人を除いて衿なしであった。夏および冬の外出時には重ね着をした服装が描かれており、夏服は流行の影響、冬服は防寒のためと考えられる。夏のくつろいでいる時には重ね着は描かれていなかった。

下衣は、くつろいでいる時には男女とも全員「パンツ」を描き、夏服には膝丈が多く、冬服には男子1人を除き足首までのものであった。外出時には季節による特徴がみられ、男子は冬服には足首ま

表6 イラストに描かれた服装の概要

(単位：人)

項目		夏服				冬服				
		外出時		くつろいでいる時		外出時		くつろいでいる時		
		男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子	
上 衣	衿	あり	7	3		1	17	21	1	
		なし	26	32	33(4)	34	16	14	32	35
	袖丈	長袖					33	35	32	35
		半袖	28	23	19	28			1	
		袖なし	5	12	14(4)	7				
	模様	あり	3	9	1	2	3	3	2	2
		なし	30	26	32	33	30	32	31	33
	重ね着	あり	8	18			25	30	4	3
なし		25	17	33	35	8	5	29	32	
下 衣	パンツ丈	膝上	1	1	4	3				
		膝	14	2	23	20			1	
		ふくらはぎ		1						
		足首	18	22	6	12	33	19	32	35
	スカート丈	ミニ・ショート		1				4		
		ノーマル・ナチュラル		8				12		
		ミディ・ミモレ								
		ロング・マキシ								
	スカート型	タイト		5				9		
		ギャザー								
		フレアー		4				3		
		タック						1		
		プリーツ						3		
	模様	あり	2		1		1	7	1	1
		なし	31	35	32	35	32	28	32	34
	アクセサリ	あり	12	7			5	4		
なし		21	28	33	35	28	31	33	35	

() 内は、着用していないことを示す。

でのものであったが、夏服には膝丈の「パンツ」が半数近く描かれていた。女子は外出時の「パンツ」は大半が足首までのものであったが、「スカート」を夏服には9人、冬服には16人ほど描いていた。季節にかかわらずミニかノーマル丈のタイトスカートが多かった。「スカート」は足を露出するため、冬は寒さから身体を守るために着用されないことも予想されたが、「ブーツ」の流行を反映して「スカート」とのコーディネートを楽しむためと考えられる。

上衣と下衣の組み合わせについては、夏の外出着には上衣として「Tシャツ」、下衣としてシンプルな「パンツ」「ジーンズ」「ハーフパンツ」の組み合わせが多数であった。男子は「ノースリーブ」(2人)「Tシャツ」(2人)「Tシャツとポロシャツ」の重ね着、女子は「キャミソールとTシャツ」(4人)「タンクトップとTシャツ」(4人)「キャミソールとカーディガン」(4人)の重ね着など、アイテムは違うものの重ね着をした服装が多かった。男女とも、下衣のパンツはシンプルなデザインであるが、中には「ポケット付きパンツ」「カーゴパンツ」「センタープレスのパンツ」も描かれていた。また、スカートは「ミニスカート」「フレアスカート」(4人)の他、ミニスカートの下にスパッツを着用し

た服装もみられた。装飾品としては、「ベルト」(7人)「ネックレス」などであった。くつろいでいる時には、男女とも上衣は「Tシャツ」、下衣は「ハーフパンツ」「パンツ」の組み合わせがほとんどであったが、男子の中には上衣としては何も着用しない人、ここ数年流行している甚平を着用している人もいた(3人)。また、女子の中には、高校時に使用した体操服を着用している人がいた。体操服として必要はないが、着ることができなくなったわけではなく着心地が楽なため、くつろいでいる時の衣服として利用していると思われる。

冬服については、外出時には男子は「シャツ」「トレーナー」「タートルセーター」(2人)の上に「ジャンパー」「ライダーズジャケット」「コート」「Gジャン」を重ねた服装や「ロングTシャツ」と「Tシャツ」の重ね着もみられた。下衣の「パンツ」には、夏と同様「ポケット付きジーンズ」「カーゴパンツ」「模様入りのパンツ」の他、「コーデュロイのパンツ」があった(2人)。装飾品としては、「マフラー」(2人)「ネックレス」(2人)「帽子(キャップ、ニット帽など)」、履物としては「スニーカー」が描かれていた。女子は、上衣に「タートルセーター」(6人)「Vネックセーター」「シャツとセーターの重ね着」の上に「コート」「ジップアップのジャケット」の組み合わせ、脚部には「タイツ」「ストッキング」、履物として「ブーツ」、装飾品として「マフラー」(3人)「ベルト」などの組み合わせも描かれていた。「ジャンパー」「コート」には“ファー付き”のものもあった。くつろいでいる時には、男子は着脱が容易な前あきの上衣(4人)やユニクロのスウェットセットも描かれていたが、全体的に上衣には「パーカー」、下衣には「パンツ」の人が多かった。女子では、上衣には「キャミソール」「Tシャツ」「トレーナー」の重ね着、下衣には「パンツ」「ストッキング」の重ね着をしたり、フリースを着用したり、また靴下を履いたりして、男子よりも女子の方が暖かくする工夫をしている人が多かった。

上述のように、大学生の男女の服装として流行を取り入れながら、衣服による気候調節、機能性を考慮した服装が描かれている。

4. おわりに

今回の調査対象者は、大学の近くから徒歩、自転車で通学している学生あるいは自宅から自家用車で通学している学生が多いことも考えられるが、服装における男女の性差は比較的少なく、機能性を重視した衣服を選択、着用していると評価される。そして、日常生活の中で着用している衣服は自然環境にも左右されるが、その日の「気分」で選んでいる場合が多く、自由記述欄には「ゆったりしたものはリラックスした気分になり、きちっとしたものは引き締まった気分になるなど、普段と違った衣服を着用すると気分が変わる」「自分のお気に入りの衣服を着用している時は気分がよくなる」「身だしなみでその人の第一印象が決まると思う」「衣服でその人の趣味がわかる気がする」「着るものひとつで気分が変わるので、身につけるものには気を使う」「気に入った衣服を見つけたり、それを着用したり、いろんな着回しを考え付くと嬉しい」「学校に度派手な衣服で来るのは変だ」「服装で相手の気持ちをよくしたり悪くしたりする」などの感想が書かれているように、服装は自分自身やまわりの人へ与える影響は大きいものがある。

既製衣料の購入に対して、「福井は男物の衣類の販売が少ない」「デパートの1階フロアーがすべて男子服のところをもっとたくさんあると良い」「好きなブランドの服は福井には数が少ないので、他県でまとめ買いをしている」「キャミソールやノースリーブのTシャツはよく売られているが、半袖のものもっと出して欲しい」「ブランド物でもいいと思うものがないときもある」などの記述もある。全国的にみて福井県は人口が少ないため、品物を豊富に揃えるには需要と供給の面から採算のとれないことも考えられる。しかし、大学生の場合男女において衣生活に対する関心はかなり高いことを考慮すると、日々の生活を心豊かにするためにも「欲しい服」「着たい服」を容易に入手できるシステムを検討することが望まれる。

謝辞

本研究を進めるにあたり、アンケート調査にご協力くださいました皆様に感謝いたします。

文献

- 1) 藤原康晴, 1986, 女子大生の被服の関心度と自己概念および自尊感情との関係, 家政学雑誌, Vol.37, 493
- 2) 藤原康晴, 1987, 女子大生の好きな被服のイメージと自己概念との関連性, 日本家政学会誌, Vol.38, 593
- 3) 藤原康晴, 1987, 性格から想定された服装及び服装から想定された性格, 繊維工学, Vol.40, 279
- 4) 加藤雪枝, 椛山藤子, 1980, 被服における配色効果の研究(第1報)ブラウスとスカートの配色の感情効果, 家政学雑誌, Vol.31, 29
- 5) 加藤雪枝, 椛山藤子, 1982, 被服における配色効果の研究(第2報)配色空間構成による2色配色調和の検討, 家政学雑誌, Vol.33, 136
- 6) 加藤雪枝, 椛山藤子, 1982, 被服における配色効果の研究(第3報)ブラウスとスカートの色調和の検討, 家政学雑誌, Vol.33, 199
- 7) 石塚純子, 加藤雪枝, 椛山藤子, 1987, 各種デザインにおける着装イメージ, 日本家政学会誌, Vol.38, 321
- 8) 加藤雪枝, 天宮 勇, 橋本令子, 2004, 被服の色彩が着用者に及ぼす心理的・生理的影響—SD法、脳波、心電図による解析—, 日本家政学会誌, Vol.55, 531
- 9) 加藤雪枝, 天宮 勇, 橋本令子, 2004, 被服の配色が着用者に及ぼす心理的・生理的影響—SD法、脳波、心電図による解析—, 日本家政学会誌, Vol.55, 541
- 10) 神山 進, 牛田聡子, 栢田 庸, 1987, 自己と被服との関係(第1報)身体像ならびに自己像と被服, 繊維製品消費科学, Vol.28, 25
- 11) 神山 進, 牛田聡子, 栢田 庸, 1987, 自己と被服との関係(第2報)身体ならびに自己に対する満足—不満足感と被服, 繊維製品消費科学, Vol.28, 77
- 12) 神山 進, 1990, 衣服と装身の心理学, 関西衣生活研究会
- 13) 神山 進, 1986, 被服心理学入門(第4章)役割, 被服と人間行動, 衣生活研究, Vol.13, No.3-4, 30
- 14) 神山 進, 2004, 「被服と性の消費行動」とそれを規定するライフスタイル要因—大学生における「被服と性の消費行動」, 繊維製品消費科学, Vol.45, 16
- 15) 小林茂雄他, 2001, 着装規範に対する着装行動要因の影響, 繊維製品消費科学, Vol.42, 743
- 16) 小林茂雄他, 2002, 日本女性と韓国女性の服装における場違い感の比較, 繊維機械学会誌, Vol.55, No.6, 65
- 17) 小林茂雄他, 2002, 女性用スーツの着装イメージと色彩効果, 繊維製品消費科学, Vol.43, 658
- 18) 小林茂雄他, 2002, 女性用スーツの着装イメージと色彩効果における中高年女性と女子大学生の比較, 繊維製品消費科学, Vol.43, 686
- 19) 小林茂雄他, 2003, 日本と日系アメリカの高齢女性の着装意識と実態の比較, 日本家政学会誌, Vol.54, 377
- 20) 小林茂雄他, 2003, 着装状態の女性用スーツと着装場面の適合性, 繊維製品消費科学, Vol.44, 332
- 21) 日本衣料管理協会, 衣料の消費実態調査
http://www.jasta1.or.jp/jasta03/jasta03_03.html
- 22) 「週刊ファッション情報」ファッション雑誌アンケート
<http://www.fashion-j.com/ranking/magazine.html>
- 23) 玉村美香, 服部由美子, 2004, 福井市およびその周辺に在住する高齢者の既製衣料購入に関する現状と課題, 福井大学地域環境研究教育センター研究紀要, No.11, 107